

会報 第26号

みなみあいづ

発行 令和8年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齋藤修一

魅力にあふれる
南会津の山々
その1



会津のmatterホルン 冬の蒲生岳
十島地区より撮影(提供 田中昭一氏)

齋藤さんの聖地？ 斎藤山（撮影地南会津町永田）



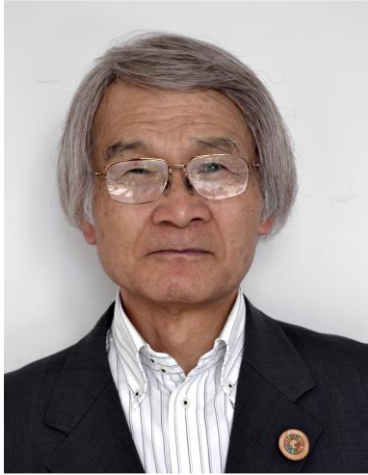
福島県公立学校退職校長会南会津支部

目 次

表紙 題字 故桑名完爾先生 写真 斎藤山、蒲生岳

- 目次 (敬称略)
- ご挨拶
「学校教育の復権」 県公立学校退職校長会南会津支部長 齋藤 修一 p. 1
- 特別寄稿
「本と私」 県教育庁南会津教育事務所長 土屋 智明 p. 3
「只見町の教育の今と未来」 只見町教育委員会教育長 渡部 公三 p. 5
「学び続けることの大切さ」
南会津郡小中学校長協議会長（荒海小学校長） 渡部 学 p. 6
- 新会員より
「雑感～校長室にて～」 栗木 孝直 p. 8
「節目の年に」 白井 秀行 p. 9
「どうぞよろしくお願いいたします。」 田代 茂 p.10
- 支部会員より
「グラウンド・ゴルフとパークゴルフが新たな生きがいこ！」
下郷町檜原 湯田 恒弥 p.11
- 忘れられない出会い
「森の小学校との出会い」 会津若松市門田町 星 富子 p.12
「忘れえぬ出会い二つ」 南会津町井桁 斎藤 龍雄 p.13
「G7」 只見町黒谷 吉津 政一 p.14
「忘れられない出会い」 磐梯町更科 渡部 正弘 p.15
- 表紙に寄せて
「斎藤山登山実行委員会の顛末」 南会津町長野 星 弘明 p.16
「蒲生岳との出会い」 只見町蒲生 田中 昭一 p.18
- 事務局より
 - ◇ 晴れの受賞 祝珍寿 堀金 保男 先生 p.21
 - 祝米寿 湯田 耕衛 先生 p.22
 - 祝米寿 荒川 俊一 先生 p.23
 - ◇ お悔やみ、総会 p.24
 - ◇ 現職・退職校長会合同研修会、同懇親会 p.25
 - 祝瑞宝双光章 玉川 邦夫 先生
 - ◇ 県大会に参加して 橘 成美 p.26
- 趣味と生きがいの部屋 p.27

※ 編集後記



ご挨拶

学校教育の復権

南会津支部長 齋藤 修一

「家の子供がまだ学校から帰宅していないがどうなってるんだ！！」と夕方、学校に怒鳴り込む父親。その対応をすべく学校はフル回転。その後よくよく状況を調べてみると、子どもが親に知らせないで友達の家で遅くまで遊んでいたことが判明し一件落ち着いたとのことであったが、どこか後味が悪い話でした。

「家の子は、担任からの厳しい指導で学校に行きたくないと言っている。どうしてくれるんだ！！」と校長室に乗り込む親。こうした背景を受け、教師も宿題を絶対やってきなさいとは指導しないし、宿題をやってこないことを責めない等の対応をしているとの話もお聞きします。

「教師がとことん指導しても、親が納得いかず訴えれば、教師は処分される可能性は高い」そこまでの危険をおかして指導はできませんの声・・・



現場の教育についてここ10年近くずっと気がかりなことが心の奥底で引きずっておりました。今の学校は自信を持って教育・指導できる状況なのだろうか。教師は本当に自分の理想とする教育に邁進できているのだろうか。教師という仕事に生きがいと誇りをもって仕事ができているのだろうか。

私の感覚が間違っているかもしれませんが、学校現場が教育に自信を持てる状況ではないように感じます。もちろん親が一方的に悪いとは言いませんし、深い理解をいただきご協力をしていただいている親の方もいっぱいおられます。

また、学校や教員も様々な不祥事を起こし、学校教育への信頼を裏切る事例も多くあるのも事実です。しかし、相互批判からは何も生まれないので、まずは、学校側として取り組むべきこととして、今こそ「学校教育の復権」を果たさなければならぬと考えますがどうでしょうか。「復権」の基盤は、「学校教育への信頼回復」です。

現代は「らしさの失われた時代」と言われ、「先生らしさ」「医者らしさ」「警察らしさ」「政治家らしさ」等々全て失われています。一方で「俺様」の時代到来の感があり、正しいのは「俺様」の判断こそという風潮が強く感じられます。

〔会長挨拶〕

こうした中で「学校教育の復権」はかなり難しいとは思いますが、将来の日本を担う人材育成、ひいては世界と伍してやっていける日本の人材育成のためにはどうしても「復権」が必要です。そのためには、ぜひ校長先生のお力をお貸しいただきたいのです。

「復権」の基盤である「学校教育への信頼回復」の近道はありませんが、

「学校と保護者が子育ての目標と方針の共有化を図る」ことが最も重要だと思います。

特に、校長先生は教育のプロとして、学校としての教育の目標や方針をもっともっと自信を持って保護者に説明・納得・共感の場を創出していく必要があるのではないのでしょうか。この共有化は当たり前なのですが難しいことです。場をとらえて繰り返し繰り返し訴えることと、保護者の考えにとことん耳を傾け、共に教育のあるべき姿を模索していく以外方法はないと思います。こうした「学校教育復権」にかける校長先生の姿は、職員の方々に日々の教育への自信と勇気を与えるものと思います。

拙い私の校長経験から苦い経験をお話してみます。

ある年「学校経営の在り方」を民間の方に外部評価していただくという事業に一年間取り組むことになりました。2～3人の民間の方が、校長、職員、児童、保護者の方々に教育の状況を随時ヒヤリングする形で事業は進んでいきました。

やがて途中で校長に中間報告がありました。「この学校の最大の課題は、校長の学校経営の方針がそれぞれの立場の方にほとんど理解されていないことです。」というものでした。これは鈍感の私にとってもかなりのショックでした。更に続けて「話したから理解していただいていると考えていませんでしたか」と言われ、返す言葉がありませんでした。まさに民間の経営ではあり得ないといわんばかりの指摘でした。

私の失敗の轍を踏むことなく大いにその力量を発揮し素晴らしい学校経営に邁進していただきたいと思います。ご期待申し上げます。

私たちの退職校長会は、現場の校長先生や職員の方々が少しでも教育しやすい環境になるよう今後も側面から支援していきたいと思っております。



〔特別寄稿〕

「本と私」

福島県教育庁南会津教育事務所

所長 土屋 智明



本が好きな子どもでした。きっかけは、小学生の頃母親が連れて行ってくれた図書館だったように思いま

す。父親が「小さい頃はよく絵本の読み聞かせをしたもんだ」と言っていたのですが、残念ながらほとんど記憶にありません。今のうちに、YouTubeやオンラインゲームがあるわけでもなく、家庭内での娯楽は乏しかったように思います。

雑誌の学研の

「科学」は、よく父親が仕事帰りに買ってきてくれて

おり、楽しみにしていました。実家にあった本で思い出深いのは『サザエさん』です。なぜか全巻揃っていました。後は、小学生向けの図鑑がありました。それらの本だけでは足りず、娯楽に飢えていた小学生の私が図書館から借りてよく読んでいたのはモーリス・ルブラン作の『怪盗紳士ルパン』シリーズ（ルパン三世のおじいさん）、コナン



ドイル作のシャーロックホームズシリーズ。江戸川乱歩の『怪人二十面相』、

『少年探偵団』などです。中学生になると、よく赤川次郎のミステリー作品を読んでいました。どんでん返しが悔しくも心地よく、思いもよらない意外な結末に衝撃を受けることを楽しんでいます。伏線を見逃さぬよう、そして、ミスリードされないように、ある意味自然とクリティカルリーディングをしていたようにも思います。もう1人、中学時代に忘れられないのは、灰谷健次郎で『太陽の子』『兎の目』の2冊です。中学時代の国語科の先生からプレゼントしていただいた本で、大学生時代の卒業論文、「灰谷健次郎作品に読む教師像」というテーマに繋がりました。高校生になると、椎名誠『わしらは怪しい探検隊』をはじめとしたシリーズをよく読んでいました。あまり



りに奔放で自由な野外生活が魅力的で、後にキャンプを始めるきっかけになりました。大学で

思い出深い本と言えば、司馬遼太郎作『龍馬が行く』です。司馬遼太郎の描く龍馬像に憧れました。広く先見性のある視野、大きく魅力的な人間性に惹かれ、もっと早くにこの本と出会いた

〔特別寄稿〕

かった、という思いを持ち続けました。20数年後に息子が高校入試に合格した際に、ここぞとばかりに文庫本全8巻セットをプレゼントしました。残念ながら、それから10年近く経った今も、「読んだよ」との声は聞こえてきません。人に本を薦める難しさを実感しました。社会人になってからは、浅田次郎の『天国までの百マイル』他、有川浩の『図書館戦争』シリーズ、三浦しおん『舟を編む』ほか。最近では、宮島未奈の『成瀬は信じた道を行く』『成



瀬は天下を取りに行く』『成瀬は都を駆け抜ける』の3部作、主人公成瀬の猪突猛進ぶりが気に入ってます。三上延の『ビブリア古書堂』シリーズも長い付き合いです。面白いと思う作品に出会うと、同じ作家の作品を読み続けています。漫画も好きでよく読んでいます。（『ハイキュー！！』や『ダイヤのA』などスポーツ系も好きです。）

以前、猛烈な読書家の先輩から、「書籍は、数百円から数千円で、その人が何十、何百時間かけて書いたものを受け取ることができる。しかも、その内容は、出版のプロが何千、何万の人が

読むに値する（売れる）価値のあるものと判断したもの。少しでも気になったら迷わず買う」と話されていました。なるほどと思い、本を買うことが増えました。

また、人が読んで面白いと思う物語を紡ぎ出す高い創造性の必要な作家とい



う職業には、憧憬の念を抱いています。創作した物語で読者を感動に巻き込み、涙まで誘う作品からは、よいお酒を飲んだ後のような心地よい酩酊感さえもたらすような力があり、強い魅力を感じます。

読書は、私の人間解釈に少なからぬ影響を与えています。「世の中には、本当に多種多様な人や生き方、考え方がある。やっぱり『人』は面白い。」というものです。教育の世界の魅力も、



「人（子ども）」や「人の成長」に驚かされ、感心させられることが多いことかもしれせん。

面白い本は世の中にたくさんあります。子どもたちには、1冊でも多くの自分だけの大好きな本や作家にぜひ出会ってほしいと願っています。

「只見町の教育の今と未来」

只見町教育長 渡部公三



南会津の教育に長年ご尽力され、今日の学校教育の礎を築いてこられた退職校長会の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

只見町は、少子化と人口減少が急速に進行しており、児童生徒数は年々減少し、小学校3校の児童数は合わせて119名となりました。このような状況を踏まえ、令和12年度を目標に、町内3小学校を統合し、只見中学校に併設する小中一貫校の整備を進めています。

学校統合は単なる規模の適正化ではありません。子どもたちが多様な考え方や価値観に触れながら学び合い、切磋琢磨できる教育環境を整えることが目的です。

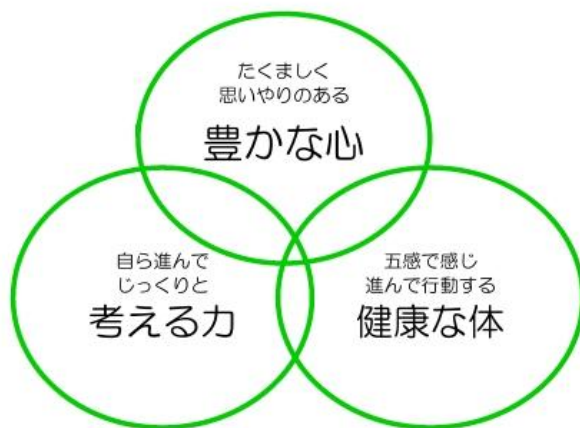
さらに、本町では令和7年度に幼保連携型認定こども園「ぶなのもりこども園」を開園しました。今後は新園舎の整備も計画しており、就学前教育から義務教育までを一体的に捉えた「教育の郷」づくりを進めています。

只見町教育の特色は、ユネスコエコパークの理念を生かしたESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）にあります。子どもたちは、ブナの森や清流、雪と共に暮らす地域の文化や産業を学びながら、自然と人との関わりについて考えています。地域そのものを学びの場とし、ふるさとへの誇りと愛着を育む教育を推進しています。

教育を取り巻く環境は大きく変わっても、「子どものために」という教育の原点は変わりません。これまで諸先輩方が培ってこられた教育実践と地域との信頼関係を大切に受け継ぎながら、未来を担う子どもたちのために、より良い教育環境づくりに努めてまいります。

只見町幼保連携型認定こども園の基本理念

只見町はユネスコエコパークに認定された、豪雪が育んだ自然と生活・文化を生かしながら、思いやりと豊かな心、生きる力を備えたたくましい子どもを育むために次の目標を掲げます。



只見町民憲章

(昭和54年5月3日制定)

美しい山なみと豊かな流れ、そして雪のふるさと、ここに生きる私たちは先人の努力をたたえ、その忍耐と創造の歴史をうけ継ぎ活気あふれる住みよい町づくりをめざして、この憲章を定めます。

- 一、ゆたかな緑ときれいな水をまもり
美しい町をつくりましょう
- 一、互いに助け合い親切をつくし
楽しい町をつくりましょう
- 一、産業をおこしみんなで働ける
豊かな町をつくりましょう
- 一、教養を深め心と体をきたえ
文化の町をつくりましょう
- 一、きまりを守り良い風習を育て
住みよい町をつくりましょう

- 「人・もの・こと」を大切にする心と、生あるすべての物を大切にする心を育てます。
- 自分の力で行うために考え、試行錯誤しながら諦めずやり遂げる力を育てます。
- 集団生活の人とのふれあい中で、ルールと協調性を身に付け、違いを認めながら自己コントロールする力を育てます。
- 集団生活における個性を尊重し、人・自然・地域に主体的に関わる中で、自ら行動する力を育てます。
- 様々な体験の中で自分の思いを伝えとともに、多様性に気づき、新しい考えを生み出したりする力を育てます。
- 食事と体を動かすことの重要性を伝えながら、健やかな心身の発達を導きます。
- 伝統行事や遊びを通して、たくましく生きる力や協働してやり遂げる力を育てます。

【只見町認定こども園整備事業基本構想より抜粋】



学び続けることの大切さ

南会津郡小中学校長協議会長
(南会津町立荒海小学校) 渡部 学

便利になった。教員として仕事を始めた頃、通知表、指導要録、週案、会計簿などは、手書きの時代でした。通知表や指導要録の下書きが完成すると、今度は清書。清書するときは、曲がらないように薄く線を引き、枠の中に収まるように文字の大きさを考えながら、一言一句間違わないようにと緊張して書き進めました。そのため、たくさんの時間がかかりました。さらに通知表の裏の修了証は筆字で書かなければいけなかったのも、何度も何度も練習を重ねてから清書をしたのを覚えています。週案の時数管理や会計簿の計算も大変でした。何度も計算機を使って確かめたからです。本当に時間がかかりました。学年通信作成の際は、写真を入れたりすることはありませんでした。また、学習発表会の背景などは、大きな模造紙に絵を描いて飾ったりしました。アナログの時代だったのだと実感しています。ワープロも使っていましたが、2、3行くらいしかない液晶画面のワープロを使っている先輩もいました。このようなことを若い教員に話してみても、きっと当時を想像することはできないでしょう。

デジタル社会となり、AIが普及し

た現代は、昔に比べると、とても便利になりました。文字の大きさは枠に合わせて瞬時に変えられ、もちろん曲がることもありません。筆字も選べます。計算ソフトを使えば、自動で計算してくれるので、計算機の押し間違いもありません。パワーポイントを使っの発表は、学習発表会や授業の中でできるようになりました。ドリルやプリントの他に、パソコンを使って自分で学習を進めることもできます。アンケートなどは、児童や生徒、保護者がQRコードを読み取って回答すると一度に集計やグラフの作成までできます。学習内容によっては、パソコンやデジタル教科書などを使用したり、動画を見せたりしながら、授業を組み立てて実践している教員も多くいます。調べたことをAIに訊いたり、AIの力を借りて資料を作成したりすることもできます。私が教員になった36年前とは大違いです。

2030年度から全面実施予定の次期学習指導要領。今回の改訂は「情報活用能力」の抜本強化や授業時数の弾力化など、子どもの学び方そのものを変える内容を含んでいます。「情報活用

〔特別寄稿〕

能力」については、小学校で「総合的な学習の時間」に「情報の領域（仮称）」が新設されます。中学校では、現行の「技術・家庭科」から「技術」を分離し、情報活用能力の向上に重点を置いた「情報・技術科（仮称）」が新設される見通しです。

次代を生きる子どもたちを指導していくためには、私たち自身が、情報活用能力を高め、時代に取り残されないように学び続けていかなければなりません。次期学習指導要領についても、適時情報を収集するなどして、「主体的に学び」、「対話をしていく」中で、「深い学び」につなげていきたいと考えています。

年を重ねるにつれて、便利さを獲得するために時間がかかるようになってしまった自分がありますが、分からないことや覚えたいことは、自分から学ん

だり、得意な先生方に聞いたりして、これからの仕事に生かせるように日々努力を重ね、学んでいきたいと考えています。学び続けなければ、新しい教育について行けなくなってしまうからです。

さて、南会津郡小中学校長協議会では、「教職員の資質向上」、「教職員の働き方改革」、「校長会の運営方法の課題」などについて協議しています。そこで、視野を広げ、学び続けて校長としての資質を高めたいと考えています。南会津郡小中学校長協議会は、これからも子どもたちのため、南会津の教育の充実のために精一杯頑張っていくつもりでおります。退職校長会の皆様には、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



「雑感～校長室にて～」

南会津町立桧沢小学校校長
栗木 孝直



昨年 8 月、赤いちゃんちゃんこを着て家族に還暦を祝ってもらいました。教員生活 38 年を経て、今後はかわいい孫を子守

りしながら「晴耕雨読」の生活もいいなと考えていました。

しかし、定年が延び、家庭内折衝も難航し、微力ながら特例任用にて南会津の子供たちのために尽力することとなりました。着任したのは教頭職でお世話になった学校でした。教頭時代は「檜沢小学校」でしたが、針生小との統合に合わせ、新設の「桧沢小学校」となりました。14 年ぶりで、児童数は約半分。子供の数は変わりましたが、子供の笑顔や保護者、地域の方の協力する姿勢は変わらず、抵抗なく勤務することができています。

さて、昨年度から郡の小中校長会では南会津を若手教員の研修の場として充実させることで、今後の人材確保をねらった取組を進めています。生徒指導上の案件等が少なく、理想の教育ができる南会津を十分に味わえるようにしています。

しかし、生徒指導案件がないわけではありません。虐待の疑いや SNS 等など「学校教育」というよりも「家庭教育」でのトラブルが多く見られます。

SNS 等はメディアを巡るトラブルですが、私が子供の時もあったかと。テレビです。「〇時だよ、〇〇集合！」「〇〇たち〇〇ー〇〇族」や「11〇〇」等は「子供に見せたくない番組」として PTA などから名指しされていました。その後メディア側の自主規制も厳しくなり、現在の放送となっているかと思っています。

SNS 等では「16 歳以下のネット使用の制限」が多くの国で検討されています。自主規制については SNS 等は個人配信もあり、「表現の自由」にも関わる事柄で難しいと思います。しかし、受信者である子供のスキルや情報モラルを高めるだけではなく、発信者側の規制もある程度必要になってきているように思います。テレビの衰退がこのメディア自身の規制にあるとも考えられますが、SNS 等においてもこの「自主規制」が・・・などと桧沢小の校長室で考えています。

私の孫が SNS 等を駆使する年齢になる頃には、このようなことも過去の事案として扱われていることを期待しています。とはいえ、そのためにはまずは「孫」がほしいですし、独身貴族を謳歌している息子たちが、孫を私に会わせてくれる家庭をしっかりと構えてほしいと思う、退職後の日々です。

よろしくお願いします。

節目の年に

南会津町立南郷小学校教諭 白井 秀行



役職定年を迎え、4月
から教諭として南郷
小学校に勤務して
います。そのまま退

職しようと思っていたのですが、今年度から南会津郡でも、初任研においてメンター方式で指導するようになり、その研修コーディネーターとして5校（小学校2校、中学校3校）6名の研修に関わっています。10年間校長室という個室で仕事をしていた時とは異なり、職員室や事務室で仕事をするようになると、今までの感覚とは異なります。また、毎日、違う学校に勤務しているので、同僚も日によって変わります。初めての勤務の仕方なので戸惑いもありますが、楽しいことも多いです。

その1つ目が、初任者の指導です。6名の先生の話をする度に新鮮さを感じ、自分の経験からアドバイスをすることで、今まで培ってきた教育への思いを伝えることができます。校内研修は、一人あたり100時間実施するように計画されています。でも、そのすべてを指導するわけではなく、校内の先生方と分担して指導し

ています。また、研究授業は、1年間に5回行います。6名いるので合計で30回の授業に携わるようになります。一緒になって、学習指導要領解説で確認したり、授業の展開を考えながら教材研究をしたりするので、新たに学ぶこともあり、自分の教師力の向上にもつながっています。

2つ目は、中学校での勤務です。35年間小学校勤務だけだったので、まずは授業中、多くの先生方が職員室にいることに小学校との違いを感じました。また、道徳科の授業（心に残る教材文が多かったです。）を参観したり、学校行事を見たりすることで小学生との発達段階の違いを目の当たりにし、教師としての視野が広がりました。小中連携で授業を見る機会はありましたが、一定の期間お互いに交流してみるのも、よい機会になるのかと思いました。

この4ヶ月、本当に貴重な経験をさせていただいており、充実した生活を送っています。まだ現役ですが、今年度より退職校長会に入会しましたので、何かとお世話になることと思いますが、よろしくお願いいたします。

どうぞよろしく願いいたします

田代 茂



この3月まで、令和6・7年度荒海中学校長を務めておりました。この度、60歳を機に退職し、福島県公立学校退職校長会南会津支部に入会させていただくことになりました。

諸先輩方のお仲間に入れていただけることを、たいへんありがたく、光栄に思っております。

南会津で校長として過ごした2年間は、忙しさの中にも充実した日々でした。子どもたちのため、先生方のために何をすべきか試行錯誤の毎日でしたが、地域と学校が一体となって子どもを育てる南会津ならではの文化に触れられたことは、私にとって大きな学びでした。行事や日常の場面で、地域の方々が自然に子どもたちを支える姿に深い感銘を受けました。分からないことや迷うことばかりの私に、多くの助言をいただき、背中を押していただいた校長先生方のお力が、何よりの支えでした。お陰様で、何とか職責を果たすことができました。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

さて、近況と忘れられない出会いについて述べさせていただきます。退職後は、老いてきた義父母との同居のため東京に移り住みました。実家や親戚は福島にありますので、いわば二拠点生活のような日々です。(先日も墓の草刈りや墓参りをしてまいりました。)東京での生活は、自然環境や人の数、世代構成、流通する物や情報量など、南会津とは大きく異なります。地域ごとに異なる文化や雰囲気があり、歩くだけでも新しい発見があります。学校の様子も地域によって大きく異なり、教育の多様性を改めて感じています。退職直後の4月は、学校に行かないことへの違

和感が強く、学校はどうしているだろうかと気になったり、外を歩けば近所の学校に自然と目が向いたりしました。自分がいかに学校中心の人生を送ってきたかを思い知る日々でもありました。

さて、新しい生活をつくりなおす中で、大切にしていることが2つあります。一つは、家族との時間を大切にすることです。一緒に朝食をとったり、料理をしたり、旅行をしたりと、忙しさの中では十分にできなかった時間の大切さを改めて感じています。もう一つは、これまで後回しにしてきたことに向き合うことです。実家の整理や、親戚・隣近所とのゆっくりした会話などの時間を意識してつくっています。

忘れられない出会いを思い返すと、教員生活の中でお世話になった多くの先生方のお顔が浮かびます。特に、南会津でお力添えいただいた校長先生方は、初めて南会津に入った私を温かく受け入れてくださいました。また、私が迷う場面でも適切にアドバイスをくださいました。私自身が校長としての役割を果たすことができたのも先生方のお陰と思っています。また、荒海中の先生方も、温かく支えてくださった忘れられない存在です。南会津での出会いこそ、私にとって最も心に残る出会いであると感じています。

「人を残すは上」という後藤新平の言葉があります。野村克也氏もよく引用していた言葉だそうです。現場を離れた今、お世話になった先生方への感謝とともに、自分は役割を果たせたのか、次の先生方に良い形でつなぐことができたのかと、振り返ることが多くあります。これからは退職校長会の一員として、皆様のお話から学びをいただきながら、微力ながらお役に立てればと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

【支部会員より】

グラウンド・ゴルフとパークゴルフが新たな生きがい！

下郷町橋原 湯田恒弥



グラウンド・ゴルフ（GG）との出会いは退職した平成24年4月。初めて参加したときは、地元とはいえ知っている方はほとんどいませんでした。でも何度かプレーしているうちに徐々に馴染んできて会話も増え楽しくなってきました。

平成29年には、下郷町にパークゴルフ（PG）場が出来たこともありPGも始めました。PGはGGとは違った面白さがあり、そちらもすっかり夢中になりました。今ではクラブをスイングしないと落ち着かない？くらいです。

GGやPGをプレーすることは、「運動不足の解消」、「打数を数える」、「仲間とのコミュニケーション」などメリットは多々あります。それに、仲間プレーするので「孤立化」や「孤独化」とも無縁になり、これらは認知症の予防にも繋がってくると信じています。

両方とも、最初はただプレーをするだけでした。数年後、役員になると、また違った味わいができました。現在、GGは町の事務局長、PGは町と県の会長をしています。他地区で開催される大会の案内をして参加者をまとめたり、主催する大会の要項や組み合わせを考え、そして大会の運営をするなど、次から次へと仕事があり、休んでいる暇がないくらいです。ですから一カ月は「アッ」という間に過ぎてしまいます。

現在、GGもPGも様々な大会で、他

地区の方との交流もできて人間関係の輪が広がっています。会津大会、福島県大会、東北大会と参加するにつれ多くの方と知り合いになりました。様々な職種経験の方々との語らいは実に意義深いものです。まさか、この年でこんなに多くの方々と知り合いになれるとは思いませんでした。それに、皆さん元気でパワフルであり、私は、逆に元気をもらい張り合いが出てきて、生きる意欲も湧いてきます。

GGもPGも願いは一つ。「健康寿命の延伸」です。健康であれば、家族に介護の負担をかけることもなく、医療費の削減にもなり社会貢献することができます。いつまでも、健康な体で日常生活を全うしたいと思っています。

元下郷中学校長の室井恒男先生も両協会（GG,PG）に所属していて元気にプレーしています。先生は御年94歳。私の目標であります。私はPGを始めてまだ10年ですが、先生の年齢までプレーするとなると私にはあと20年の時間があります。今までプレーした2倍の時間、GG、PGが楽しめる事を考えると気持ちが、ワクワクしてきます。

まだ、プレーしたことのない方は、機会がありましたら是非、GG、PGを体験し、大いに楽しんでもらいたいと思っています。



下郷町世代間交流 PG 大会

森の小学校との出会い

会津若松市門田町 星 富 子

元輝川柳のお題が『森』の時浮かんだのは、4年間お世話になった桧沢小学校でした。

森生きて小学校の貌になる

と、いとも簡単に川柳にしましたが、佳作で元輝新報に載りました。実は上位十点の秀作をねらっていたのですが…。しかし、「小学校の貌になる」は、選者や読者には理解できないと思いました。

当時、桧沢小学校は地元材特に節のある杉材を腰板として活用し、更には各教室に合った森の木が適材適所に使われていました。木の香かおる校長室は広々として明るく、南側の大きな窓からは登校の様子や校庭で遊ぶ子ども達がよく見えました。青々とした山々が連なり田畑が広がっています。この恵まれた校長室で、訪問客や子供達、先生方と接する喜び、4年間はあっという間でした。「小学校の貌」とは、地元材を使った木造校舎と仕切りのない多目的スペースを備えた学校は、桧沢小学校イコール貌だったのです。

その上、学校の裏手は森林になっていましたから、自然や森林を活かした学校行事が組まれました。子ども達と

職員、保護者、地域が一体となり行事を盛り上げました。そして一人ひとりの子どもの感性がはじけ、詩や作文につながっていったのです。



タマゴダケを観察する南天の星の面々。手前左が筆者。

小学校時代、最も大事にしたいのが「美しいもの、未知なるもの、神秘的なものに目を見張る感性を育むこと」だと今でも思っています。

校長時代の10年間、子ども達の詩が約400編、新聞に載ったのを記念して退職時「南天の星」として出版し、三校の子ども達に感謝を伝えることができました。

24年経った今は、「南天の星」を心のよりどころとしています。その子ども達に一句。

「褒められてまんまる花まる
弾む子等」

忘れえぬ出会い二つ

南会津町井桁 齋藤 龍雄



大学に入り、教職を志すうえで大きな方向付けになった出会い、それは「文字」でした。

小学校教員養成課程に入りましたが、副免で中学校

(高校)教員の免許も取得できるので、歴史が好きで興味関心があった社会科にするか、古文や漢文が苦手だが必要性を感じていた国語科にしようか迷っていました。単位も選択科目で半々ぐらいずつ取得していました。

国語科の授業で、村上直治先生の講義を受けることになりました。そこで圧倒的な衝撃を受けたのです。先生の板書は芸術品でした。まず、文字そのものが日本語の文字として均整がとれ、これまでに見た事のない美しさでした。幾分右肩上がり(5度くらいの角度?)で、若干縦長の形ですが、活字のような堅苦しさはなく、流麗で个性的でもありました。漢字とひらがな・カタカナの文字と文字、行と行の空間の調和も見事でした。チョークの使い方も職人技といってよく、親指と人差し指、中指でつまんで、くるくると少しずつ回しながら、ちょうど良い筆圧で全く太さも変わらない文字はまさに圧巻でした。板書全体がまるで一幅の名画のように厳然とそこに創造され、出現するのです。

この見事さは、次の講義のために同じ教室に入ってこられたほかの教授も感動し圧倒されたらしく、「あまりにも美しいので、この板書は消さずに取っておきたいぐらいです。このまま残しておいて授業を進めます。」とおっしゃったのでした。この出来事はなおのこと印象深く、私の記憶にしっかりと刻まれ、今に至る

まで鮮やかに残っているのです。

村上直治先生は、昭和46年から平成6年まで大学に勤務されました。学校現場や附属中学校での経験や実績が高く評価されてのご栄進だったと思います。先生は話し方の機微にも富んでおられ、分かりやすく、印象深く、時に熱く語られました。講義内容はもちろんですが、それ以上に板書とその文字、話し方など全てにわたり、すっかり先生の虜になってしまいました。目指す目標が目の前に現れ、自分の悪筆を嘆き、悩んでもいた自分にとって、この出会いは決定的でした。もちろん、国語科に決め、単位取得に励みました。

書写書道の講義にも重大な影響を受けました。ここで第二の出会いがありました。藤本正(竹亭)先生のご指導を直接頂いたのです。第1回の書き初め展を仲間たちと共に苦労して立ち上げられ、開催に尽力され、書き初め展も第20回を数えていました。当時も福島県書写書道教育研究会の会長であられ、その重鎮としても活躍しておられました。

その藤本先生から書写の初めての授業を受けたときのことでした。教室で課題が提示され、臨書をしていたときです。緊張の中、一生懸命書いていた私の所に回ってこられた藤本先生が、筆を持っている私の右手首をそっとつかまれたかと思うと、「クルリ」とひっくり返されたのです。「えっ!？」と私に衝撃が走りました。全身に鳥肌が立った思いでした。

『手の甲を上にして、筆を押さえつけるようにするのではなく、手のひらを上にして筆を引っ張るようにして書くとよいのです。鉛筆で文字を書くときと同じ書き方が自然ではないですか?』小学校のときから毛筆の書道で教えて頂いてきた常識が根底から覆された一瞬でした。まさに自分にとっての「コペルニクス的転換」だったのでした。

ガリ版印刷時代の新卒当時から始まり、書写書道教育など文字に対し、自分なりに意欲的に取り組み、子供たちにも伝え続ける教職生活を送ることができたかなと思っています。

【忘れられない出会い】

「G7」

只見町黒谷 吉津 政一



昨年の6月に
福島県公立学校退
職校長会会津大
会は南会津町の
御蔵入交流館に
おいて開催さ
れ、素晴らしい
大会となりました。大会実行委
員長、総務を中心
に大会実行委員の

方々の結束と役割遂行
により、大会成功に繋がったように感じ
ます。なにより南会津の退職校長会のチ
ームワークの良さが発揮された大会だっ
たように思います。大会に参加された他
地区の方々とも10年ぶりくらいに再会
でき、うれしい限りでした。

この大会の9日後、私は横浜市の関内
にいました。大学卒業後、50年ぶりに
部活で同期だった6人と会うためです。
発起人は4年前脳内出血で倒れたM君
でした。数年前までM君とは年賀状で
年1回の近況報告だけでしたが、病で入
院してからはSMSやメール等で連絡し
あっていました。2023年2月に無事
退院し、現在は週6日のリハビリを行っ
ています。そのM君からの同期会開催の
提案にすぐ賛成しました。部活のキャプ
テンだったY君（千葉県佐倉市在住）か
ら同期生に連絡してもらい、6月19日
開催が決定しました。

私は午後4時20分に関内のホテルに
到着、既に6人はチェックインし、私の
到着を待っていました。遠くは広島県の
尾道市から参加したN君、他は千葉県か

ら3人、横浜市から2人（M君も横浜市
在住）、私を含めて7人全員集合しまし
た。横浜市のT君は奥さんの介護や義母
の世話があり、最初出席は難しいとい
うことでしたが、横浜市で開催するので何
とか参加することができました。S君（千
葉県千葉市）は母親の具合が悪くなり、
参加が危ぶまれましたが50年ぶりとい
うことで参加してくれました。（4日後
にS君の母親が亡くなりました）みんな
年相応に容姿は変わりましたが、全員集
合できたことがこの上なくうれしく感じ
ました。

再会した瞬間から半世紀前の大学時代
にタイムスリップ、午後5時からの懇親
会では思い出話が次から次へと出てきま
した。T君は大学1年時の長野県小諸市
での合宿の時に右足親指の爪を割ってし
まい、痛くて大変だったこと、Y君は初
デートの時、コーヒーを注文し、緊張し
ていつも入れている砂糖を入れるのを忘
れてしまったこと、体の大きいM君はい
つも天地真理の「恋する夏の日」を歌い
ながら自転車で練習に来ていたこと、私
は医学部との練習試合で頭にデットボ
ールを受け、医学生寮に一泊し次の日に
診察してもらったこと（異常ないの
でしっかり勉強するように言われた）な
ど、話すのと飲むのとで瞬く間に時間
が過ぎていきました。

大学1年の時にこの6人に出会ってい
なければ私の人生は今とはかなり違っ
たものになっていただろうと思います。
7人とも先輩の扱いに負けず、中途退部
することなく4年間硬式野球を継続し
たことは教師になってから多くの場で役
に立ちました。7人の内6人が教師にな
りました。今は古希を過ぎた7人の爺様
（G7）となりました。

忘れられない出会い

磐梯町更科 渡部 正弘



南会津退職校長会の皆様には、大変ご沙汰をしております。この度、久しぶりに拙文を寄せさせていただきます。

さて、今回のテーマは「忘れられない出会い」ということですが、振り返ってみれば正に「出会い」によって今に至る道筋が照らされ

てきたものと痛感しています。出会いには、いい出会いもあれば、そうでないものもありますが、どんな出会いもポジティブにとらえ、それが自分を成長させてくれた礎になっているなど、今になって思います。

それでは、少し話はくどくなりますが、大学卒業後に初めて講師として勤務した「磐城農業高校」でのことです。教壇に立てる喜びで意気揚々としていた6月のことですが、その日はボーナス支給日でした。当時は現金での支給でしたので、職員室で現金を数えている光景に耐えきれず（講師の私は、PTAから雀の涙程度の支給でしたので）、図書室に避難しました。しばらくして職員室に戻ると、私の机の上に1カートンのたばこが置いてありました。それは同じ学校に勤務する大学の先輩からでした。その時の嬉しさは鮮明に記憶しています。

その後、いわきの高校を何校か転々としてたある日（今になって思えば、楽しかったですが）、その先輩から呼び出され、通信教育で小学校の免許をとることを勧められました。高校の教員を目指していた私にとって、小学校などとは寝耳に水でした。躊躇する私に「免許があっても邪魔になるもんでないべ」と説得され、お世話になった大学の先輩でもあることから、渋々と通信教育を始めました。それでも小学校の教員などとは、さらさら考えもしませんでした。

いよいよ単位も残すところ教育実習だけになった時、私は好間高校に勤務していました。教頭先生に事情を話すと、なんと目の前で受話器を取って、私が住む湯本の小

学校で実習できるように手配してくれました。あまりにも素早い対応に驚きを隠せませんでした。と同時に本当に有り難かったです。その教頭先生には、時々自宅で晩ご飯をご馳走になっていました。その学校はハワイアンセンターの前にある木造の小さな小学校でした。6年生を受け持ち、放課後は迫る陸上大会の指導ばかりで授業の記憶はあまりありませんが、ただ、その子どもたちがキラキラと輝いて見えたのです。

「よし、小学校の教員になろう」単純にそう思うのですが、その時はまだ厚い壁に気が付きませんでした。実技試験があることを忘れていたのです。水泳、鉄棒はまだしも問題はピアノ、持久走です。ピアノはバイエルの97番だったと思います。全く弾いたことのないピアノでしたが、同僚だった音楽の先生の家で毎日通い、何とか弾けるようになったのが不思議です。持久走は煙草を辞め、毎晩近くの中学校のグラウンドを走りました。それだけ必至にやれるエネルギーがあったら、なんで高校教員の勉強をもっと真剣にやらなかったのかと。つくづく反省しました。

様々な方との「出会い」があって、そして助けられて、やっと私は小学校の教員としてスタートを切ることができたのです。運が良かったと思います。

最後になりましたが、林真理子の「80代になるとたいていボケるか死ぬ。70代は神様から与えた特別な時間」というエッセイ集があります（失礼な題名ですが）。与えられた貴重な時間を、やりたいことをやりながら悔いなく過ごそう、日々そう思いながら過ごしています。皆様のご健康を祈念しながら、最後まで読んでいただいたことに感謝いたします。



斎藤山登山実行委員会の顛末

南会津町長野 星 弘明

斎藤山ふれあい登山は今年で16回目を迎えた。「斎藤山」という名前は不思議である。人名のような響きを持つのでついその命名の謂れが気になる。近くには加藤谷川という戦国の武将で会津藩主の加藤嘉明を彷彿とさせる川も流れている。しかし、新編会津風土記にも載っているものの名前の由来は分からない。会津百名山にも、福島百名山にも選ばれている。しかも長野の住民にとっては大事な里山である。

長野区では、地域の行事が次々となくなって気抜けした状態であった。地区の運動会はなくなり、14回も続いた町主催全国規模のクロスカンントリー大会「だるまさんがクロカンド」も終わってしまった。地区を上げて全面協力していたのに、地区の結束力が急にしぼんでしまったような雰囲気漂っていた。地域の結束力は大きなイベントで形成される。そんな中で長野区では、県の地域活性化事業に手を上げて「斎藤山ふれあい登山」を始めたのであった。

初年度は、長野区が主催して山頂整備。ヘリコプターをチャーターして資材を運び、山頂の案内看板を設置した。手造りの参加記念木札を造り、長野区民総出の歓迎で登山客をもてなした。県内外から170名の参加者を得た。

次年度からは、有志の実行委員会が引き継いだ。それが現在の組織。舗装されたトラック道を避けて新たなルートを開拓した。それが現在の登山ルートである。雷神様経由で見晴台に至り、山頂を極めからは早生栗経てを帰る周回コースである。会費500円、茸汁と漬物、新米のお土産付きという至れり尽くせりの登山の会であった。斎藤さんには藍染めハ

ンカチをプレゼントするというおまけ付き。340名の参加を得た。

3回目からは登山道の改修として急斜面の改修を、見晴らしをよくしようと見晴台と山頂付近の伐採を実施した。チェーンソーと燃料を担ぎ上げ、手弁当での作業であった。持ち主からは苦情らしき声も聞かれたが、村のためということで許して貰った。婦人会、消防団、老人会、財産区の縁故者会、子供会等々、あらゆる団体が協力してくれた。地域が一丸となった気分が戻ってきた。体育館の休憩所ではお土産抽選会や茸汁と漬物のサービスをし、同時にアンケートも実施した。高評価が多かったが、注文もあった。登山道の険しさに関するものだった。

そこで、次年度からは再び登山道の改修と見晴らしの強化に注力した。直登を避けて緩い迂回路を作った。急斜面にはステップを切り、ロープを張った。見晴らしの確保のために間伐をした。その枝を利用して階段道も作った。

小鳥の森作りにも多くの労力を注いだ。福島小鳥の森に見学に行き、レンジャーに森造りのノウハウも聞いてきた。雷神神社周辺の雑木林の下草を刈り、枝打ちをして歩きやすくし、緑の少年団や地域子供会の行事を活用して巣箱作り。小鳥の水場も確保した。

リピーターを増やそうと、前年の参加者にははがきを出して参加を募った。はがきを貰ったので今年も来ましたという人が結構多かった。

地元の田島二小では隔年で全校行事にしてくれた。まさに地域一丸。付添として親も参加してくれるので平成28年度は最高の660名の参加を得た。現在までの累計で6,500名を超える参加を

〔表紙に寄せて〕

得て、文字通りのふれあい登山になった。景気づけに風船飛ばしも実施した。そのために若松のイベント会社からヘリウムボンベを借り、当日の朝早くから風船作りをした。

実行委員会の合い言葉は、10回はやろうということだった。10周年記念の行事として町の山桜一万本植樹事業に乗って、参加者に150本の記念植樹をしてもらうことにした。そのために会員の栗林を伐採整地して用地の確保をしなければならない。会員の土地を利用して十数人の会員が連日手弁当で一週間も掛けて造成した。記念植樹をした人たちはその後の成長が気になってリピーターになるだろうという目論見もあった。

TVの取材もかなりあった。FTVやKFB,FCT,NHKも来た。気象予報士の斎藤さんにも来て貰った。斎藤さんは毎年のように来て番組で宣伝もしてくれている。しんごろうも食べて貰った。

コロナ騒動では、混乱を避けて2年ほど実施しなかったが、3年後には再開した。併し、参加費は取らず、きのこ汁サービスと新米お土産は取りやめた。その代わりにトラック市としんごろうの販売に注力した。破格値段の地元野菜と南会津名物のしんごろうは大変な好評で毎年品切れ状態が続いている。

特にしんごろうは、刈り上げの行事食であったが、囲炉裏の消滅と同時に家庭では作られなくなった。幻の食べ物である。懐かしいという声が多くあり、特に地元の客が多い。一人で30個も注文する人まであり、生産が間に合わないことが多かった。また、ジュウネン味噌の原料であるエゴマの栽培も大変である。焼き手の確保も大きな課題で、村中に声を掛けて手伝ってもらっている。長野のしんごろうは安くてうまいという評価が定着している。

斎藤山はすっかりメジャーな山になった。休日になると必ず何人かの登山客を見るようになった。時にはバスで乗り付ける団体もある。十何回も登ったという客もいる。いつまでも続けてほしいという人の気持ちもよく分かる。

累計登山者6,500人、斎藤さん650人。登山道の整備や小鳥の森、山桜植栽地の造成等々、作業延人数は何百人になるだろうか。10回まではと言って頑張ってきた登山の会であったが16回目を迎えるまでになってしまった。止めるに止められないという状態である。

併し、会消滅の危機が突然やってきた。実行委員会の要の人物の急死であった。誰もが予想できなかったことだ。彼がいなければ一歩も前に進むことは出来ない。私は会長と言ってもシャッポのような者。急遽役員会を開くものの、後継者がいない。解散するしかないということになった。しかし、それはならぬ、俺がやると名乗りを上げる者が出た。斎藤山の火を消す先輩が築いてきた火を消してはならないという覚悟で声を上げたのだろう。忙しい仕事の合間を縫って要の仕事してくれた。他の役員も少しずつ役目を分担してようやく実施できる運びになった。

今年はなんとか会の存続が出来そうだが、来年からはどうなるか。若い人になんとかバトンを渡したいのだが・・・危機が去ったわけではない。



昨年の第15回ふれあい登山…累計6,500人を突破

蒲生岳との出会い

只見町大字蒲生 田中 昭一

(1.) 蒲生岳とのそもそもの出会い

蒲生岳との出会いは、昭和50年に結婚したのがきっかけである。地区の先輩方の話では、昭和40年代から老人会の若手や血気盛んな方が登山道の先駆けになる道に、ツルハシやタガネで足形を掘りながら縦走ルートを作ったと聞いていた。我が家の真後ろの山だが登るきっかけはなかった。麓からやや平坦部までは、春には柴木や焚き木を切りに村人は誰もが上り下りしていたに違いない。炭焼き小屋を造ったり(カジゴ焼き)まさに生活の山であった。その名残の地名は今も残っている。(昼岩・夫婦松・家族松・白糸の滝等々)途中までは幾つもの作場道を造っていたらしい。風穴を利用して養蚕も盛んでカイコまゆを保管するために険しい山道を背負いあげたりおろしたりしていたと聞く。山菜の宝庫なので山菜取りは争って行ったと聞いた。蒲生は雪が深くて人情も深いそして何ととっても欲が深いと他地区の方は冷ややかな目で見ている。それは、雪深く半年近く長い冬である。若いころはびっくりしたものでした。その当時は山開きの行事もなく、時折元気な方が登山していた。昭和50年代の蒲生区・春の区普請(共同作業)では半日仕事で登山道を大鎌で刈払いをしていた。(4人ずつの東西2組)むろん無料奉仕であった。私が初めて割り当てられた昭和60年代後半ころは半日日当3,000円でした。(町からの補助金が入ったらしい。)30代後半でも作業はとてもきつかったのを覚えている。当時旧舘岩・大宮市立少年自然の家で宮里造林の職人さんと時々半日登山コースや1日登山コースの登山道整備を経験していたが、蒲生岳登山道整備は別格で



した。舘岩の山々は初めから標高が高いので(標高800m位)ルートは緩やかだが、蒲生岳は標高350m位から1時間30分位で一気に500m以上直登する険しい山であった。そのころから年一回だけの登山道刈払いでもとてもきつかったのを覚えている。

式典後に一般参加者とともに故田部井さんは正面から登る

(2.) 会津のマッターホルンに

ツェルマットから臨むマッターホルン(スイス・イタリア：ドイツ語)は、標高4,478mで世界中のアルピニストの憧れの山である。マットは牧草地・ホーンは角や鹿の角を表している。パンフレットで見たあの憧れの山である。(私の憧れの山は、生まれ育った西会津町の北に聳える飯豊連峰でした。)

東北のマッターホルンと呼称される山は、祝瓶山(いわいがめやま)・標高1,417m はなぜか山容が似ているので知っていたが登った経験はない。

教頭として只見小学校に勤務していた時に、平成7年に国体山岳競技が只見町・浅草岳で実施された。これを機会に大胆にも「ふるさとの山に登ろう」と銘打ち6年間で6つの山に登る計画を立て、秋の遠足で親子登山を実施した。

【表紙に寄せて】

(低学年：A旅行村の山・B要害山，中学年：A日宮沢観音・B柴倉山，高学年：A蒲生岳・B浅草岳の中間点鬼面向かい) A・Bとしたのは雨天延期ありで卒業までに6つの山々を登ろうとした。(この企画は数年継続したらしい)

蒲生区では登山道刈払いは毎年実施していた。山開きはしなかったが登山客は増加していた。区の有志の中から『国体山岳競技を機会に蒲生岳山開きを開催しよう』と提案され、計画～実施へと町当局観光課の協力を得ながら進められ、平成11年6月6日(日)・**第一回蒲生岳山開き**を実施した。さらにインパクトの強いものにしたいと考え、数回の交渉を重ね**第三回蒲生岳山開き**に世界的アルピニスト**田部井淳子女史**招へいに漕ぎつけた。 ※7月1日(日)

「会津のマッターホルンだね。」と感動されたと聞いています。区民総出で歓迎・慰労し山開きの継続開催を約束したそうです。効果観面でその後の山開きは急に登山客も増え、早朝のイベントには駐車場も狭く区の実行委員も苦労したようだ。(その後土地を提供してもらい駐車場を拡張)企画力の素晴らしさに敬服するばかりだ。その後の山ガールブームと相まって、まさにうなぎ上りに登山客も増えてきた。蒲生岳登山道整備も町から委託され補助金を受けるようになった。半日登山の充実のために様々なルートの開発も余儀なくされた。退職後は、児童生徒の案内を引き受け、率先して蒲生岳の魅力を発信してきた。



(3.)第20回記念蒲生岳山開き

悪天候で中止された年度もあるが山開き6月第一日曜日と固定し実施してきた。平成16年中越地震により登山道の一部が崩落し、閉鎖に追い込まれた。少し大げさだが魅力ある山を日本中に発信しようという機運も高まってきた。

校長退職(平成22年)して間もなく、区長になり各種イベントも企画する側になった。そんな矢先に平成23年7月に新潟・福島豪雨に見舞われ、JR只見線は長い間不通になり、廃止路線の危機に直面してきた。それでもめげずに山開きは開催継続してきた。(JR只見線復興：令和4年10月1日) 当時の登山道整備は点検・山開き準備・管理維持・補修・刈払い・新ルート開発と多忙を極め、年6回以上山頂往復する日程になった。区の活性化委員会に委ねられたために中心となってやらねばならなかった。次第に補助金は増やせたが、残念ながら作業員確保が困難になってきた。少子高齢化と過疎地域の後継者不足に直面し区民も100戸を忽ち割ってしまった。作業は刈払いだけでなく、土留め工事・アンカーボルト打ち込み・太いチェーン固定・太いロープ固定と多岐にわたり、岩肌の山肌が高所作業は危険と隣り合わせである。太さ16mmアンカーボルトを岩盤に打ち込むためにハンマードリルを使い、チェーンを固定するが雪崩のために挟み取られてしまう。太いロープ(マーク：新幹線のぞみ)は、毎年100m程度使用した。(20m単位に切断して山腹の太い木の幹の根元に固定しておく。)運搬も固定作業もすべて人力であった。

にもかかわらず半日登山・標高828m・中級のキャッチフレーズが先行し甘く見ている高齢者も多い。「高尾山と同じぐらだから山頂まで手すりをつけろ」というご婦人もいた。山の険しさは標高ではなくルートだと感じている。

【表紙に寄せて】

【とりわけ危険な高所作業】



チェーン固定



岸壁にチェーン張り



ハンマードリルで
14mm～16mmの穴あけ



チェーンを固定しながら山肌に
固定しながら延長

登山道整備隊長の時代は紆余曲折はあったがとても充実していた。平成30年6月には第20回記念蒲生岳山開きを迎えることができた。当日何の前触れもなく故田部井淳子女史のご主人が参加され「淳子の追悼登山だ。」と張り切っていたのがなぜか印象的だった。有名にさせていただいた功績には感謝しているが、継続していくことは容易ではなかった。他県の山岳ガイド・植物研究家・昆虫学者等蒲生岳をメインに専門的な繋がりもできた。区民・関係者・登山客に記念品を配り記念の小冊子を届けることができたので一安心した。いくら老体に鞭打っても、年6回以上山頂往復は無理だと感じた。補助金増額は可能だが、人員確保困難では事業の推進にも限界がきた。町当局に願い出て、「只見町4名山」に組み入れていただき、山開きイベントを継続し、登山道整備は森林組合にお願いした。ようやく任が解けたので最近ほっとしているが…。

(4.)これからの山への思い(様々な角度からの蒲生岳)



山は人の心をひきつける何かを持っている。人間の本能を掻き立てる魔法の力を宿している。蒲生岳に引き寄せられて50年を迎え『ここで生きよう』と誓いを新たにした。蒲生岳ほど見る角度によって(季節季節に)様々な顔を見せ、低山だが登ってみれば魅力倍増の山もそんなにないだろう。蒲生に引き寄せられなければ、こんなことは思いもよらなかったに違いない。ビューポイントも他の人以上見つけたので、これからも機会を見て紹介したい。

会津のマッターホルン・蒲生岳名づけの親・故田部井淳子女史に恥じないように日々精進したい。(後期高齢者としての人生は長く厳しいだろうが・・・)

【晴れの受賞】



祝 珍寿（95 歳） 堀金 保男 先生

4 月 2 2 日（水）めでたく珍寿を迎えられた 堀金 保男 先生に賀詞と記念品をお渡ししました。

先生は現在、奥様とともに只見町の「こぶし苑」に入居し生活しておられます。開口一番のお話は、日本が太平洋戦争へと進む少年期のことでした。満州事変の年に田島の静川に生まれ「朝礼ではご真影のある奉安殿に最敬礼したものだ」「校庭にはサツマイモを植え、収穫したものは若松の連隊へ送っていた」「中学の時、学校でラジオを聞いた。玉音放送だ。自分には零戦のパイロットになる夢があった。『耐えがたきを耐え 忍びがたきを忍び・・・』は自分にはまだ頑張れと聞こえた・・・」などなど アメリカによるイラン攻撃をはじめ世界各地で侵攻や侵略が続く中、無関心のうちに日本も戦争に引きずり込まれてしまうのではないかとの疑念からのお話だったように思います。

昭和 29 年に東洋大学を卒業後、一旦は都会に就職したものの教員不足から地元に戻り、田島町立荒海小学校八総鉾山分校勤務を振り出しに、明和中、只見中、朝日中、下郷中と勤務される中、社会科の学習指導や学校図書館経営の進め方などについて貴重な実践を残されました。さらに檜枝岐中教頭、明和中教頭を経て、石川町立沢田中校長、只見中学校長を歴任。退職後は只見町史専門委員や文化財調査委員として貢献されました。

山桜が咲きそろい、さわやかな新緑の香りあふれる中の訪問でした。堀金先生ご夫妻には今後も健康に留意され、仲良くお元気にお過ごしいただきたいと思います。

〔晴れの受賞〕



祝 米寿（８８歳）

湯田 耕衛 先生

３月２９日（日）めでたく米寿を迎えられた 湯田 耕衛 先生宅を訪問し、賀詞と記念品をお渡ししました。

先生は昭和３６年３月法政大学を卒業後、千葉県柏市立第二中学校を振出しに国語教師としての道を歩み出されました。福島県の教員として戻られてからは郡内の中学校を歴任され、福島大学附属養護学校勤務もご経験されました。

「一番の思い出は新任教頭として着任した檜枝岐中学校で、校舎が雪崩災害に遭ったことだ」と、当時の貴重な写真や新聞コピーをもとにお話ししてくださいました。昭和５９年２月２８日午前１０時過ぎ、校舎裏山斜面で表層雪崩が発生、大きな衝撃波とともに大量の雪が校舎になだれ込みました。図書室、家庭科室、技術室が雪で埋まり、本やミシンが散乱、「校舎は大きく損壊したが、一人の犠牲者も出さなかった」と、当時を感慨深く振り返っておられました。さらに館岩の大宮少年自然の家勤務を経て、昭和６３年只見中学校長、檜沢中学校長、荒海小学校長を歴任、田島小学校長を最後に平成１０年３月に定年退職、その後も区長や保護司、青少年育成町民会議委員など社会貢献活動にも積極的に取り組んでこられました。

退職後に趣味の「写真」「書道」「俳句」をはじめ、作品集の自費出版などもなさってこられました。いずれにおいてもその道を究めようと努力を続けること、それが元気を保つ秘訣であることを教えていただきました。お優しい奥様とこれからも仲睦まじく、健康にお過ごしください。

〔晴れの受賞〕



祝 米寿（88歳）

荒川 俊一 先生

5月30日(土)にめでたく米寿を迎えられた 荒川 俊一 先生宅を訪問し、賀詞と記念品をお渡ししました。

先生は昭和36年3月福島大学学芸学部を卒業し、西白河郡中島村立吉子川小学校を振出しに会津若松市立共和小学校、城西小学校と勤務されその後、国語科の教員として猪苗代町立吾妻第二中学校、田島町立田島中学校、泉崎村立泉崎中学校に勤務の後、舘岩村立上郷小学校教頭に昇任、さらに県教育センター研修員、下郷町立江川小学校教頭、南会津教育事務所指導主事を経て南郷村立南郷中学校長へと昇任なさいました。さらに南会津教育事務所業務次長を経て平成11年に田島中学校長を最後に定年退職されました。この間「誠実に生きる」をモットーとして常に自己研鑽に努められ、情熱を持って児童・生徒の指導にあたっられました。その功績が高く評価され平成21年に瑞宝雙光章を受章されました。退職後も県の学校教育相談員や町教育委員会の社会教育委員長、生涯学習まちづくり推進協議会委員、さらに田島調停協会家事・民事調停委員も勤め、地域社会に大きく貢献してこられました。

「出稼ぎばかりしていました…」と奥様が優しい笑顔で当時を振り返っておられました。俊一先生は現在、週に3日デイサービスにいらられるとのことでした。息子さんが南会津に戻ってきて家を継いでくれるので、ほっとしているというようなお話も伺うことができました。これからも健康第一に、仲睦まじくお過ごしください。

— 謹んでご冥福をお祈りいたします —

松永 則暢 先生 （下郷町栄富）令和7年12月9日ご逝去 98歳
裏磐梯中校長、南小校長、檜沢小校長、荒海中校長を歴任されました。

長谷川 次男 先生 （南会津町本町）令和7年12月26日ご逝去 82歳
只見中校長、田島中校長を歴任されました。

佐藤 守男 先生 （下郷町刈林）令和8年6月18日ご逝去 93歳
朝日小校長、檜沢小校長を歴任されました。

渡部 芳加 先生 （南会津町川島）令和8年9月10日ご逝去 93歳
館岩村立上郷小学校を3年間務められました。

令和8年度 支部定期総会

R 8. 4. 15（水） 御蔵入交流館

会長挨拶



教育の大転換期を迎えている今、学校に寄り添う退職校長会でありたいという齋藤会長の挨拶に続き、来賓のお二人から講話をいただきました。教育事務所長土屋様からは、本県教育の現状と県教委及び南会津教育事務所の重点施策等について豊富な資料を基にお話しいただきました。また小中学校長協議会長



土屋 智明様



渡部 学様

渡部様からは、ICT 環境の整備、要支援生徒への対応、児童・生徒数減少に伴う教育活動の制限など域内の学校が抱える課題と校長会としての克服に向けた取り組みについてのお話がありました。

議事では、事業報告・会計報告、内規の一部改正、事業計画・会計予算について提案のとおり承認されました。また、事務局より円滑な事務処理のために功績調書等の提供、メールアドレスや携帯番号等の提供について依頼がありました。



令和7, 8年度役員

顧問	星 富子	広報部長	星 秀司	理事	第3方部	橋 成美
	五十嵐利明		星 賢二		第4方部	飯塚 義雄
支部長	小林 宗一	第1方部	室井 永治	庶務	会 計	渡部 早苗
	齋藤 修一		山本 恭士			星 裕次郎
副支部長	星 弘明	第2方部	大桃 豊	評議員		大塚 聖子
	玉川 邦夫		星 俊夫			齋藤 修一
監 事	橋 成美		湯田 恒弥			星 裕次郎
	馬場 永好		大塚 聖子			
	佐藤 誠一		佐藤 淳一			
	星 英雄		高橋 弘之			

現職・退職校長合同研修会



多い現代社会を楽に生きる知恵を禅の教えを通してわかりやすくお話しされています。動画は You Tube で公開されていますので是非ご覧ください。

第二部では「失敗談で和気あいあい」と題し、4つのグループに分かれて懇談しました。意外な失敗談を聞くことができたり、その経験から大きな教訓を共有できたりと、和やかな雰囲気の中で充実した話し合いができました。もう少し時間がほしかったとの感想が多く、大変好評のうちに終了しました。



現職・退職校長合同懇親会



R 8. 8. 20 (木) 丸山館
17時半からは、会場を丸山館に移し恒例の懇親会を行いました。管理職としての悩みを打ち明けたり、教育課題の解決に向け奮闘する現職の先生方の姿が垣間見えたりと、多岐にわたる話題で盛り上がりしました。

こうした現職・退職校長の交流の機会を継続したいという希望は、現職の先生方により多くあるようです。



祝 瑞宝双光章

下郷町塩生 玉川 邦夫 氏

昨年春の叙勲で玉川邦夫先生が瑞宝双光章を受章されました。この賞は、校務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与されるものです。玉川先生は、平成9年に新任校長として会津若松市立原小学校に2年間勤務、その後塩川町立駒形小学校長、伊南村立伊南小学校長、南会津教育事務所指導管理課長・業務次長、会津若松市立門田小学校長を歴任、南会津町立田島中学校長で定年退職されました。

【右 福島民報 2025.11.1】

玉川さん(元田島中)の叙勲祝う 下郷

孫3人から花束を受ける
玉川さんと美紀子さん

春の叙勲で瑞宝双光章を受けた元田島中学校長玉川邦夫さん(74)のこぼろしの湯洗心亭。2期務めた。

玉川さんは下郷町出身。田島中のほか、原、駒形、伊南、門田の各小学校長を歴任した。定年退職後、下郷町議を2期務めた。

で開かれた。約60人が出席した。発起人代表の小林宗一元荒海小学校長がいさつした。玉川さんは「これから地域のために活動したい」とお礼の言葉を述べた。妻美紀子さん(73)とともに、孫の侑芽さん(7)、莉帆ちゃん(5)、依菜ちゃん(3)から花束を受けた。

長の玉川邦夫さん(74)のこぼろしの湯洗心亭。2期務めた。

(昨年の広報で紹介できず、今号でのお知らせになってしまいましたこととお詫びいたします。)

第60回福島県公立学校退職校長会白河大会に参加して

橋 成美

期日 令和8年6月9日（火）

会場 シン鹿島

<講演>

「史跡小峰城跡の地震被害からの復興への姿」の演題で、白河市建設部文化財課 文化財専門研究員 鈴木 功 氏が小峰城の被害そして復興の様子について熱く語っていただきました。あの時の地震による被害の大きさに驚き、それからの丁寧な復興、困難な復興の様子をとっても詳しくお話しいただき、再度、小峰城を訪れてみようという気持ちにさせてくれました。また、「小峰城」に対して白河市民だけでなく県南地域の方々の小峰城への愛情を感じることができました。



<支部の体験発表>

- 1 知る 活かす 伝える ふるさとの歴史と誇り「石川弾正顕彰会」の創設と活動
安達支部 日下部善己氏
- 2 肉眼では見えない世界に迫る
北会津支部 滝沢玲子氏
- 3 活かされた命を生きる～防災で紡ぐ未来（いま）～
相馬支部 高橋 誠氏

3支部の大先輩の方々の日頃の生活の中から感じていること取り組んでいることをとても詳しくご説明いただきました。中には、ノー原稿で、方言を交えながらの語りかけもありました。それぞれの発表をお聞きし、ご自分の趣味や得意なこと、個の能力を生かして、地域のため、自分自身のために懸命に取り組んでいらっしゃるのだと感じ、自分もより地域貢献等に力を尽くさねばと再確認したところです。



<大会宣言>

昨年度同様に、SDG sを意識されていたと思います。詳しくは 松風をご覧ください。「双葉支部」の活動充実については、削除され、感染症予防に留意した健康長寿に



ついて加わりました。昨年より簡潔さがなくなったように感じます。また、文末表現は、「～努めます。」から「～努める。」となっていました。やる気や意欲、これから即やりますという決意を感じさせるには「～努めます。」のほうがより適切だと個人的には思いました。



〔趣味と生きがいの部屋〕



星 弘明

盆花や芒恥じらう庭の隅
盆帰省孫と今年も裏の山
爺が捏ね婆が茹でたる孫の蕎麦
迎え火や野分の雨に打たれつつ

すすき野や父母在りし日の耕作地
終戦日父の戦跡地図で追い
孫子去り非日常のお盆明く
大地震に続く豪雨や秋始め
五十嵐利明

おくやま吟社八月例会句
風止むや向きはそれぞれ芒の穂
梅雨晴れや肌指す日差し強き増し
鼠火花暗がりの子追いかける
噓せ返る酢醬油強き心太
湯田 耕衛

小林宗一先生、湯田耕衛先生 おめでとうございます！

(3) 2025年(令和7年)11月12日(水曜日)

第53回県写真展の審査は 行われ、最高賞の県写真連 大橋誠寿さん(69)の「舞台 11日、福島市のアオウゼで 盟大賞・知事賞に福島市の」に立つ」が輝いた。福島民

県写真展 大橋さん(福島)最高賞
民報社賞は小林さん(南会津)

県写真連盟大賞・知事賞に輝いた大橋さんの「舞台に立つ」

福島民報社賞を受賞した小林さんの「奥会津の冬」

大橋さん、小林さん以外
の受賞者は次の通り。
◇一般▽県教育長賞▽川渡真知子(福島)▽県芸術文化団体連合会長賞▽秋葉克彦(伊達)▽県議会議員賞▽堀川亮(郡山)▽福島市長賞▽鈴木修一(福島)▽福島市教育長賞▽熊坂隆夫(福島)▽福島市文化団体連絡協議会長賞▽菊地美雄(福島)▽伊達市教育長賞▽猪狩素己(福島)▽二本松市教育長賞▽石川茂(二本松)▽本宮市教育長賞▽長谷川豊(郡山)▽郡山市教育長賞▽佐藤奈々(郡山)▽田村市教育長賞▽坪池利明(福島)▽須賀川市教育長賞▽遠藤教夫(郡山)▽白河市教育長賞▽熊田裕子(矢野)▽会津若松市

報社賞には南会津町の小林宗一さん(77)の「奥会津の冬」が選ばれた。
県写真連盟などの主催。1032点の応募があり、鉄道写真家の中井精也さんが審査した。16日午前11時から同会場で表彰式を行う。

最終選考にノミネートされました

【元輝新報×ベストファーム川柳】

お題「終活」

棄てられぬ 秘密の箱の 宝箱

湯田 耕衛

選者こはらとしこ先生
総評より

「すべての句の中から私こはらが入選ノミネートを20句絞りベストファームの方と一緒に最優秀句、優秀句の選定をしました。「終活」が単に説明に終わらず、内に含みを持った句を上位に採りました。」

【上 入賞を伝える記事 2025. 11. 12 福島民報】



写真は、星富子先生作の絵本です。
今も創作活動が続けていらっしゃいます。

編集後記

今回も事務所長様、教育長様、協議会長様から快く特別寄稿をいただき発行することができました。感謝いたします。

また、今年度仲間に加わっていただいた三名の先生方にも近況をお寄せいただきました。頼もしい限りです。

湯田恒弥先生は、多忙な毎日をお過ごしです。多忙に拍車をかける原稿依頼でしたが、生き生きとした活動の様子を伝えていただきました。

さて、今回、「忘れられない出会い」という特別テーマを設けましたところ、四人の先生方から投稿いただきました。いずれも私の想定を遙かに超える深く貴重な経験談でした。私に能力と財力があれば、映像化して全国放送したいほどです。

出会いといえば、私事で恐縮ですが、前号の橘先生のお話に出会い、山登りにはまってしまう。すると見慣れているはずの山々が今までと違った姿に映ります。

そこで、表紙写真に南会津の山々を取り上げ、山の魅力やその魅力を活かす取り組み、また、民俗的、歴史的な関わりについて会員から紹介してもらったことを企画しました。今号で取り上げたのは斎藤山と蒲生岳です。ここにもドラマがありました。

関係の皆様とと会員各位のご理解とご協力により「みなみあいづ」第二十六号が発行できました。ありがとうございました。